

2016年 3・4月号

縄文ファイル

Jomon File No.223

縄文

縄文を世界遺産に
Let's promote Jomon into
world heritage entry

NPO法人 三内丸山縄文発信の会
Sannai-Maruyama Jomon Information Association

事務局／〒030-0861 青森市長島4-11-8
TEL 017(773)3477 FAX 017(732)3545
Liaison office/〒030-0861 Prism & Co.,LTD.
4-11-8 Nagashima Aomori city, Aomori
prefecture, Japan

森と海の都「三内丸山遺跡」

縄文文明、縄文都市を総合的にイメージさせる
縄文遺跡。1994年7月保存決定。●縄文時代前期
～中期(約5500～4000年前)●規模、約35ha。
●2000年11月、国特別史跡指定。2003年5月、縄
文ポシェットなど遺物1958点が国重要文化財指定。

Sannai-Maruyama, a Jomon site

About 5,500 to 4,000 years ago, in the early
to middle Jomon periods, a sophisticated
community flourished here, its people rich with
the blessings of the nearby forests and seas.
About 35 hectares are preserved.

定価／500円



三内丸山遺跡・縄文時遊館(2014年10月24日撮影) 写真/田中義道

三内丸山遺跡・縄文時遊館の増築、 2018年の完成を目指す

国特別史跡・三内丸山遺跡のビジターセンター
である「縄文時遊館」は、2002年11月30日に開
館した。2010年には、常設展示室「さんまるミュ
ージアム」がオープン。

2015年度から、展示・収蔵および整理事業
機能の充実を図り、世界遺産登録に向けたさ
らに濃い情報発信のために、増築事業が始まっ
ている。2018年度の完成を目指している。

Jomon Jiyukan, the visitor center at
Sannai-Maruyama, a special historic site,
opened on November 30, 2002. In 2010
it opened a permanent collection and
called it the Sanmaru Museum.

Since 2015, work has been
underway to further develop the
exhibition space and storage facility.

Expansion of museum at Sannai-Maruyama Site due for completion in 2018

This is intended to transform the
museum into a place of enriched
information exchange as Sannai-
Maruyama gears up for UNESCO World
Heritage listing. The project should be
completed by 2018.

「北海道・北東北の縄文遺跡群」 世界遺産登録に向けた動き

2015年12月26日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を有する4道県と関係14市町村の首長らで作る「登録推進本部」は、これまで18遺跡としていた構成資産から長七谷地貝塚(青森県八戸市)と鷺ノ木遺跡(北海道森町)を外し、16遺跡に絞り込むことを正式決定した。16年3月までに文化庁に提出する推薦書原案の改訂版に盛り込み、2018年度の世界文化遺産登録を目指す方針。これまでに、長七谷地貝塚は緩衝地帯が極端に狭いこと、鷺ノ木遺跡は遺跡の地下をトンネルが通り、景観上問題があることが指摘されていた。

まずは16遺跡で世界遺産登録に向けて活動をし、長七谷地貝塚と鷺ノ木遺跡の両遺跡について、後に追加登録を目指す方針となっている。



「北海道・北東北の縄文遺跡群」
鷺ノ木遺跡、長七谷地貝塚の2つを除く16遺跡に絞り込んだ



三内丸山遺跡のビジターセンター・縄文時遊館 (2016年2月23日撮影)



増築が予定されている体験工房南側の敷地

縄文時遊館増築 さらに「活用」へ

三内丸山遺跡・縄文時遊館の大規模な増築事業が始まっている。国重要文化財をはじめとした出土品等の展示や、国内外に向けての縄文文化の情報発信や研究の機能を強化し、充実を図る。

計画によると、体験工房南側の敷地に、地下1階、地上1階、延床面積約3000㎡の建物が作られる。

総事業費は概算で約30億円を見込んでおり、費用は県民が募金した約1億2千万円を含む三内丸山遺跡保存・活用基金と国庫補助金を

活用する。

三内丸山遺跡では、出土品のうち1958点が重要文化財に指定されている。しかし、時遊館内の常設展示室「さんまるミュージアム」で展示しているのは約500点で、残りは青森県立美術館や青森県立郷土館に収蔵している。今回の増築により、縄文時遊館で展示、収蔵が可能になる。企画展が開催できる広い展示スペースも設置される。また、現在の仮設展示室で行っている、出土品の整理作業や保管などの機能を移し、作業風景や出土品の収蔵状況をガラス越しに見学できるようにする。

本年度は設計が行われており、2016年度から建設工事に入る。

2018年度に開館予定で、北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録に向けて弾みになるものと期待されている。

「縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム」開催

北海道・青森・岩手・秋田の各自治体が、縄文文化や縄文遺跡の価値や魅力を広く普及・啓発し、世界遺産登録を実現するために行っている「縄文遺跡群世界遺産登録推進国際フォーラム」が1月24日に東京都の有楽町朝日ホールで開催され、およそ400人が参加した。今回で5回目の開催。

フォーラムでは文化庁の村田義則文化財部長、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部長である三村申吾青森県知事の挨拶のあと、イギリスのセインズベリー日本藝術研究所考古・文化遺産学センター長のサイモン・ケイナー氏による縄文遺跡群の世界的価値についての講演があった。ケイナー氏は、「海外で日本の縄文文化の再評価が進んでいる」と述べた。

続いて、世界遺産登録を推進する専門家委員会の委員長を務める早稲田大学名誉教授の菊池徹夫氏、三村申吾氏が加わっての鼎談があった。

学習院大学教授・赤坂憲雄氏の「基層文化としての縄文文化」についての講演、岡田康博青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室長から「北海道・北東北の縄文遺跡群」に関する報告が行われた。



講演する赤坂憲雄氏



鼎談には三村申吾青森県知事、サイモン・ケイナー氏、菊池徹夫氏が参加
写真提供／青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室（上も）

2015年11月7日(土)、仙台市のユアテック本社ビルで仙台縄文塾が開かれた。講師は早稲田大学名誉教授で福島県文化財センター白河館(まほろん)館長の菊池徹夫氏。今号では、そのまとめを掲載する。

時代を区切る

人間が作り上げた一番古い文化は、旧石器時代の文化ということになっています。その後、研究者によっては、中石器時代を考え、新石器時代、そして金属を使うようになった金属器時代と大きく3つ、ないし4つに区分されます。

このような区分を一番最初に言い出したのは、デンマークのクリスチャン・ユルゲンセン・トムセン(1788~1865)です。彼が、自分の博物館に置いてある遺物ことに斧が、石製の・青銅製の・鉄製の3つに分かれるのに気づき、石器の時代、青銅器の時代、鉄器の時代という三時期区分法を考えました。

その後、イギリスのジョン・ラボック(1834~1913)が、石器時代を、荒く打ち割ったような石器だけの旧石器時代と、研いで磨いて刃を付けた石器も持つ新石器時代とに分けました。

そして、銅と錫とを混ぜ合わせた合金、青銅の時代になるわけですが、皆さんご存知の通り、青銅というのは柔らかいんですね。今は彫像など芸術作品を作ったりしますが、青銅の包丁なんてありません。そのうち、今度は鉄という本当に強くて硬いものを人間は見つけます。青銅と鉄を合わせて金属器の

世界史と縄文文化 —縄文文

World history and Jomon culture
What is the “human history value” of Jomon culture?

時代ということができます。現在ではセラミックとかプラスチックといったものが出てきていますが、今でも鉄骨や鉄筋など、基本的な素材となるのは鉄ですから、今は鉄器時代の最先端にいると考えてよろしいでしょう。

我々は、歴史というものを考えたり説明するときに、時代区分というものを使います。歴史というのは現在も未来も過去もひと続きですが、あまりにも長いので、時代を都合のいいような分け方で区切るわけです。

新石器時代とは

人々が大きなマンモスやナウマンゾウを追いかけて移動生活をしているような時代を終え、次第に一カ所に定着してムラを作り、そこで農耕をして、家畜を飼い慣らして住むようになる時代を新石器時代といいます。

新石器時代の文化は、いつ頃、どこで始まったのか。これは考古学の大きな問題ですが、地中海の東側・レヴァント地方のあたりが新石器文化の発祥の地だろうと言われています。

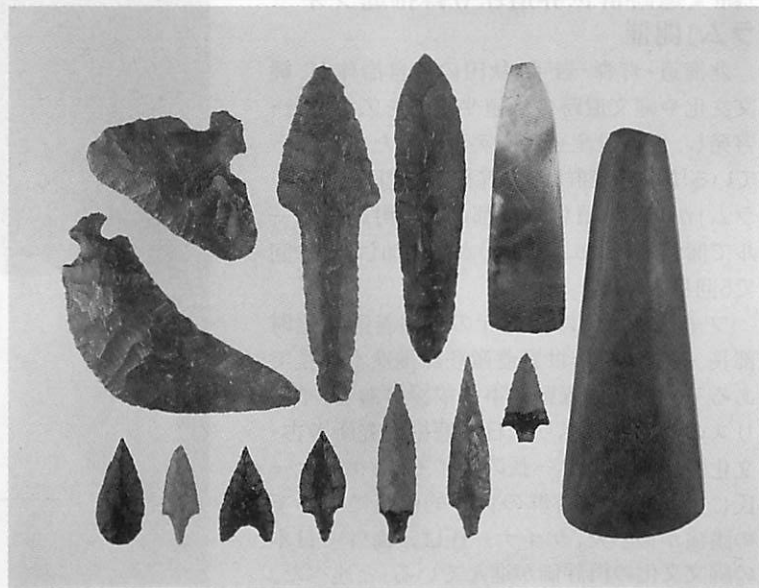
新石器時代は、旧石器時代と青銅器時代の間に位置する時代です。特徴としては、小麦などの農作物を作る耕作、羊や山羊、牛などを飼う牧畜、ムラを作って一カ所に定住するなどがありますが、もうひとつ、土器を作るということです。旧石器時代との一番大

きなはっきりした差はそこにあります。あともうひとつは、磨製石器。旧石器時代には打ち掻いたような打製石器だけだったのが、研いで磨いて刃を付けるような磨製石器を作り始めるわけです。

縄文時代・縄文文化の特徴

このように教科書に必ず出てくる『肥沃な三日月地帯』あたりが、人類が最初に農耕・牧畜・土器・磨製石器などを始めた地域だと言われています。西アジア的な段階では旧石器時代の後に新石器時代となり、ここで農耕・牧畜が始まっています。日本ではどうでしょうか？ 旧石器時代の後は縄文時代となり、新石器時代とは言いません。新石器時代と縄文時代とはどう違うのか。そこが今日の主題のひとつと考えていただいていると思います。

縄文文化の範囲は日本列島全体と言って



三内丸山遺跡で出土した磨製石器 写真提供/青森県教育委員会

化の「人類史的な価値」とは？—

◎菊池 徹夫 Tetsuo Kikuchi

Defining periods

The oldest human culture dates from the Paleolithic era, or the Stone Age. From there, prehistory can be divided into three or four eras, according to researchers: the Mesolithic, the Neolithic and the Bronze Age.

Dane antiquarian Christian Jørgensen Thomsen (1788-1865) was the first to posit these eras, proposing the stone, bronze and iron ages. Englishman John Lubbock (1834-1913) then further split this classification into paleolithic and neolithic eras.

This turned into the age of bronze, a compound alloy made from copper and tin and eventually, humans discovered the strong and hard material that is steel. It can be said that we are currently living at the cutting edge of the Age of Steel, as steel frames and rods continue to be our basic materials.

What was the neolithic era?

The neolithic era represents the fading of a hunter-gatherer existence, when nomadic tribes roamed on the hunt for mammoths or Naumann's elephants, to establishment of settlements or villages in defined locations, where agriculture and animal husbandry would begin.

When and where did Neolithic culture begin? It is said to probably have emerged in the Levant region of the

eastern Mediterranean.

The neolithic era is located between the Paleolithic era and the Bronze Age. It is defined by the cultivation of wheat and other crops and the raising of animals such as sheep, goats and cattle in established villages. Another feature was pottery, and this was accompanied by an incipient technique of polishing stones to create a cutting edge ? adzes.

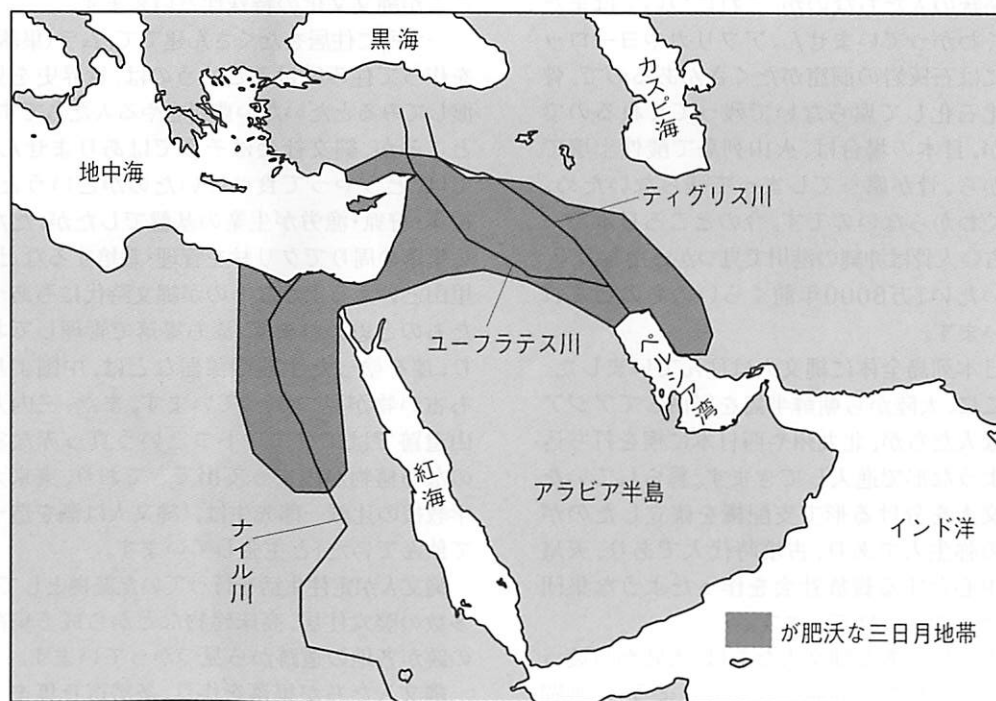
Characteristics of the Jomon period and Jomon culture

In Western Asia the Paleolithic era was followed by the Neolithic, when agriculture

and animal husbandry began. What about in Japan? Here, it was not a case of the Jomon period following the Stone Age, ushering in a Neolithic era.

It can be said that Jomon culture extended across almost the whole Japanese archipelago. Away from the islands, no remains of large-scale settlement of Jomon people have been found to the north on the Korean peninsula or Sakhalin, nor to the south in Taiwan or Indonesia.

The remains of the Jomon period include pit dwellings, stone circles, burial pits, embankments and middens. Among the relics are pottery, clay figurines and stone



肥沃な三日月地帯

いいと思います。具体的には北海道から沖縄まで。ただ、宮古・八重山諸島に関しては「縄文はないんだ」という考えの人もいます。日本列島以外の地域、北は朝鮮半島や樺太、南は台湾やインドネシアでは、縄文人たちが大挙して住み着いたことを示すような遺跡は発見されていません。

縄文時代の遺構というと、皆さんもよくご存知のように竪穴住居、ストーンサークル、墓坑、盛土、貝塚などがあります。遺物は土器、土偶、土板、石棒などです。あんなすごいデコレーションを持ったダイナミックな土器を作った文化というのはほかにありません。

そういう遺構や遺物を残した縄文人というのは、いったいどんな特徴を持って、どんな系統の人たちなのか。これについてはまだよくわかっていません。アフリカやヨーロッパには石灰岩の洞窟がたくさんあるので、骨が化石化して腐らないで残ってくれるのですが、日本の場合は、火山列島で酸性土壌ですから、骨が腐ってしまっただけ残らないため、よくわからないのです。今のところ日本で一番古い人骨は沖縄の港川で見つかったもので、だいたい1万8000年前くらいのものとされています。

日本列島全体に縄文人は住んでいました。そこに、大陸から朝鮮半島を経由してアジア的な人たちが、北九州や西日本に楔を打ち込むような形で進入してきます。暮らしていた縄文人を分ける形で支配権を確立したのが後の弥生人であり、古墳時代人であり、天皇を中心とする貴族社会を作ったような集団だとよく言われています。

先住民である縄文人たちは、大陸から渡ってきた人たちと混血もしたでしょうし、戦闘

で殺し合いもしたでしょうが、結果として東と西に分かれていきました。東の方に行ったのがアイヌ人で、西の方に行ったのが琉球人だというのが、今の日本の人類学のひとつの有力な考え方です。反論もありますが、今のところ大勢を占めている考え方です。

縄文文化の特殊性

農耕・牧畜なく1万年もの長期間、定住生活をしたというのが縄文文化のひとつの特徴です。他に、土器を作ったこと、定住生活をしたこと、磨製石器を作り始めたことなど、新石器時代と共通する点もありますが、穀物など大規模な農耕や牧畜をしていなかったという点が西アジアの新石器時代との違いです。ここが縄文文化の特殊性といえます。

一カ所に住居をたくさん建てて、ムラ(集落)を作って住み続けるというのは、世界史を見渡してみるとだいたい農耕をやる人たちです。ところが、縄文社会はそうではありません。では、どうやって食べていたのかというと、採集・狩猟・漁労が生業の基盤でしたが、ただし集落の周りでクリ林を管理・栽培するなど、里山といえるようなものが縄文時代にもあったものと思われます。漆も集落で管理しており、漆を塗った土器や漆器などは、中国よりも古い物が見つかっています。また、三内丸山遺跡ではエゾニワトコという真っ赤な実のなる植物が固まって出てきており、東京大学教授の辻誠一郎先生は、「縄文人は酒を造って飲んでいた」と主張しています。

縄文人が定住生活を行っていた証拠として、多数の竪穴住居、高床建物などから成る集落の跡が各地の遺跡から見つかっています。

縄文人たちが集落を作り、多勢寄り集まっ

て定住生活を始めるとどういうことが起こるか。ひとつは数的な観念が養われただろうということです。どれくらいの大きさの竪穴を掘ると、土量がどれくらい出て、どこに置いて、どんな長さの木をどこから採ってきて、屋根を葺いてという建築的なことから、ますます数的な観念が必要になってきます。

それから、共同生活の慣習、共同体としての意識が生まれます。遊動生活をしていた旧石器時代とはまったく違う社会秩序が生まれ、当然、リーダーや首長というような人たち、知識を蓄えた長老、性別による仕事の違いも出てくるでしょう。

おそらく、死者との関係も、定住生活によって最も大きく変わったひとつでしょう。つまりお墓のあり方です。獲物を追ってずっと移動しているような生活では、お墓をひとつの場所に作ることはなかなかできません。死者をどう葬り、どう接するかは、定住するようになってから大きく変わったものと言えます。

青森県の大平山元遺跡から出土した土器を放射性炭素測定したら、1万6500年という結果が出ました。これが、今のところ一番古い土器と言われているから、少なくとも縄文人は1年以上もの間、このような等質な集落で、竪穴住居で土器を作って、採集・狩猟・漁労で生活を送ってきたことがわかります。これは考古学者の間で一応定説ですが、外国の学者に説明すると、最初は一樣に疑います。1万年もの間、農耕もせずと同じようなスタイルで定住生活をしていたなんて信じられない、というわけです。世界中にこんな先史文化は他にありませんからね。それに対して僕たちは口を酸っぱくして証拠を見せながら説得するわけです。最近、ようやく、だいぶ



菊池 徹夫 Tetsuo Kikuchi

早稲田大学名誉教授、まほろん（福島県文化財センター白河館）館長
Emeritus professor at Waseda University,
Director of Mahoron (Fukushima Cultural Property Centre, Shirakawa Branch)

1939年北海道函館市出身。早稲田大学文学部・東京大学大学院人文科学研究科修士課程（考古学）修了。著書に「考古学の教室 ゼロからわかるQ&A65」（平凡社、2007）、「はじめての考古学（あさがく選書4）」（朝日学生新聞社、2013）など多数。

Born in Hakodate City, Hokkaido in 1939. Graduated from both Waseda University Literature Department and Tokyo University Literature Department. Completed Tokyo University Graduate School Humanities Course Master's Degree Course (Archaeology). Have written many books including "Archaeological Classroom Understandable from Zero Q and A 65" (Published by Heibonsha, 2007), "First step of Archaeology (Asa-Gaku-Sensho 4)" (Published by Asahi Student Newspaper Company, 2013).

rods.

What were the features of the Jomon people who left these remains and relics behind, what was their lineage? These questions remain largely unanswered to this day. Due to the volcanic nature of the archipelago and its acidic soils, bones have rotted away and we are little the wiser.

Jomon people lived throughout the Japanese archipelago. Then, Asian peoples from the continent arrived via the Korean peninsula, coming ashore at Kitakyushu and other coastlines of western Japan. Later the Yayoi or the Kofun period people established dominance by dividing the Jomon people. It is often said that these were the group who created an aristocratic society centered around an emperor.

Particularities of Jomon culture

One of the key features of Jomon culture was that people led a settled lifestyle over a long period of 10,000 years without agriculture or animal husbandry. Another particularity is the fact that they created pottery, lived in settlements and began to produce adzes, without any large-scale crops like cereals or animal husbandry.

Looking across history, people who build homes in a single location and live in villages are generally involved in agriculture. However, the Jomon society did not farm. Foraging, hunting and fishing were the basis of their livelihoods, but the management and cultivation of chestnut trees that we see

around their settlements, for example, make it likely that the concept of satoyama, or community forest, was alive and well in the Jomon period.

What happens when the Jomon people get together a community and settle in great numbers? One thing is that a numerical ideology is fostered. Then, the customs and habits of communal life emerge, together with a sense of single community. Of course, leaders and wise elders also come to the fore, and a division of labour by gender emerges.

The biggest change of settled life is probably in the way that the dead were honored, and in how people communed with the dead.

Carbon dating of clay figurines unearthed at the Odai-Yamamoto Site in Aomori Prefecture found they were 16,500 years old. That is the oldest clay figurine ever found at this point. From this we understand that Jomon people were living in this kind of homogenous settlement for at least 10,000 years, fashioning figurines in pit dwellings and foraging, hunting and fishing for sustenance.

A life blessed by nature's abundance

The biggest feature of Jomon culture was the ecological lifestyle adapted to its natural environment.

The Japanese archipelago is blessed by



三内丸山遺跡周辺に自生したクリの木。右上はエソニワトコ

わかってくれるようになりました。

自然の恵みを享受した生活

自然環境に適応したけっこうエコロジカルな生活をしていたことも縄文文化の一大特徴です。

日本列島の海域は世界一豊かな生物の多様性に恵まれています。最近の調査では、世界の海に住む生物の14.6%がいることがわかっています。そんな豊かな海生資源を縄文時代から享受していました。貝塚から縄文人が食べていた多種多様の魚の骨が出土していることからそれがわかります。また植物資源も豊富で、ミズナラ、コナラ、トチ、クリ、ウルシといった有用な植物がたくさん周囲を取り囲んでいて、縄文人たちはこれを実に巧みに利用していました。動物はどんなものがいたかという、シカ、イノシシが筆頭です。ただ、三内丸山ではムジナやウサギといった小動物が多いようです。

縄文人はそれらの自然の恵みを取り尽くすことなく適度に利用しています。これは人口の問題をはじめ、現代とは単純に比較はできませんが、こうした周囲の自然環境・生態系にうまく適応した、調和的な縄文人の生き方を、我々はもう少し学ぶべきなのではないかと思います。

縄文人の集落は、周囲に囲壁・柵列・土塁・堀溝といった外と隔てるような施設を持ちません。つまり、ムラは周辺や環境に対して非常に開放的です。これが縄文文化を世界と比べて見て、大きな特徴の一つになるのではないのでしょうか。中国でもヨーロッパでも集落の周りに深い溝を回らせたりしますが、少なくとも日本では、縄文時代にそのようなス

タイルはありませんでした。日本でそういう光景が現れるのは、米作りを始めるようになる弥生時代からです。佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、まさにそのようなになっていますね。

縄文時代には、黒曜石やアスファルト、ヒスイや貝といった品や、情報そのものが行き来する交易システムがありました。

ムラとムラの間で婚姻関係、つまりお嫁さんのやり取りもあったはず。嫁いだ女性が自分のムラで行われていた土器の作り方を伝え、それが拡散することによりじっさいの土器型式も変遷していったのだと考えられます。

「縄文スピリット」とも呼ばれる豊かな精神性

我々は、ややもすると、先史時代は野蛮で未開な人たちだと考えがちですが、実際には縄文人は石器時代としては他に例を見ないほどの豊かな精神文化を持っていました。

土偶、石棒、鐔型土製品、石刀・石剣、手・足型土板などは「心の道具」として、日常生活に直接必要な道具ではなく、たとえばキリスト教の十字架のような、精神的な面での道具であったと考えられています。土器の装飾や文様表現を見ても、彼らの心の表現を感じます。墓葬や環状列石については言うまでもありません。貝塚や盛土遺構も、最近ではアニミズムや祖霊崇拜など、縄文人たちの精神生活を表現していると捉えられています。

粘土の板を作り、その上に赤ちゃんの手形や足形を押し付けた土板も見つかっています。これは赤ちゃんを守るお守りとも考えられ、普遍的な母親の愛を感じさせますね。

環状列石の周りには掘建柱の住居がいく

つも出てきています。これはおそらく住居ではなくて、墓に伴うお葬式のための何らかの小屋、建物だろうと思われます。

それから、貝層に人骨がみられる貝塚も見つかっています。これは単に人骨を捨てたわけではなく、きちんと埋葬されています。人骨だけでなく、犬が葬られている例もあります。貝塚は単なるゴミ捨て場ではなく、獲って食べた貝殻や、亡くなった人を神のもとに送り返すための儀礼の場でもあったことは明らかです。

(要約・抜粋)



三内丸山遺跡のムラの様子（推定復元）

the diversity of the most abundant marine ecosystem in the world. A recent study has found that it is home to 14.6% of global marine species. Our plant resources are also very rich, which the Jomon used with great skill.

The Jomon people did not exploit and ravage these natural resources but rather, adapted to them. No simple comparison is possible with the modern era given the population problem to name one issue, but we surely have more to learn from the way

the Jomon adapted to and lived in harmony with the natural environment and ecology that surrounded them.

Jomon settlements did not have defenses to distance themselves from the outside world such as walls, pallisades, earthworks or trenches. These are only in evidence in Japan from the Yayoi period, when rice cultivation began.

During the Jomon period, there were trading systems for the sharing of goods such as obsidian, asphalt, greenstone and

shells as well as information itself.

There would have marital exchange among villages, that is to say exchange of brides. Women marrying into a village would have also brought their way of making figurines. This is how the know-how would spread and lead to the evolution of forms in figurines.

Deep spirituality, the "Jomon spirit"

We have a tendency to think of prehistoric people as uncivilized and brutish, but in fact the Jomon people had a spiritually rich culture unprecedented among other Stone Age peoples.

Figurines, stone rods, bronzeware, stone knives and swords, and hand and foot-shaped tablets were "spiritual devices" and were not used directly in everyday life. It is believed that these were spiritual items like the Christian cross, for example.

Around the stone circles, a number of pillar dwellings have been found. These may not be residences but rather, small huts or buildings used for funeral ceremonies around burial.

Human bones have also been excavated from shell middens. In some cases, dog bones are also buried with human bones. Clearly, middens were not simply waste sites but rather, they were places of honor where the shells of gathered foods and dead people were returned to the gods.

(Abridged)

(Translated by Richard Bradford)



草の根運動で縄文の魅力を広げよう！ 「縄文語り部・世界遺産ミーティング」レポート①

今年度も、4年目となる「縄文語り部・世界遺産ミーティング」を開催している。縄文の魅力を自分の言葉で語り、伝えるのが「縄文語り部」。青森県に登録している縄文語り部たちが、縄文への熱い思いを胸に活動している。今年度は、下記の8箇所(青森県内6箇所と東京、仙台)で開催している。今号では、各会場での語り部や協力くださった方々のコメントも交えて紹介する。

仙台からも 世界遺産登録の後押しを

第1回／仙台市会場

三内丸山縄文発信の会の佐藤晃郎仙台支部長の牽引のもと、仙台からも縄文を世界遺産の声をあげて応援しようと多くの人が集まった。宮城県七ヶ浜町在住の縄文語り部登録者である佐藤良弘さんが、語り部として、自身の縄文歌謡作詞家としての活動を紹介しつつ、歌も披露した。また、アドバイザーの菊池徹夫名誉教授は、「世界史と縄文文化」をテーマ

に講演を行った。

【開催日】2015年11月7日(土)

【会場】ユアテック本社会議室

【語り部】佐藤良弘さん(縄文歌謡作詞家)

【アドバイザー】菊池徹夫さん(早稲田大学名誉教授)

仙台市会場・語り部 佐藤良弘さん 母なる縄文

当日の仙台会場は熱気に包まれていました。担当の方から参加者は多くて40名ぐらいでしょうと聞いていたのでそのつもりで会場に入ったら、何と会場は満席状態なので緊張しました。NHKのテレビで縄文が取り上げられ一時間の特集番組で世界の著名学者が縄文文化の素晴らしさを賞賛していました。恐らく縄文ファンであればかたずをのんでテレビを見たことでしょう。

テレビでは、遮光器土偶の本物現物がおおよそ1億5千万円の値がついたことも紹介していました。そうしたテレビの映像は多くの人々に縄文文化を印象づけたに違いありません。当日の私の役割は、縄文の語り部として、菊池先生の前座を務めることでした。私はあまり難しい話は出来ないで、縄文歌謡で大衆的な縄文の世界を描き歌で縄文を表現したいと思いました。ちょうど11月3日に仙台市民センター大ホールで縄文夢ロマンという私が作詞した縄文歌謡を歌ったばかりだったので、タイミングとしては良かったと思います。縄文歌謡で縄文の人々と現代の縄文人を発掘するというのが私の狙いで、各地の縄文の遺跡跡を散策しながら縄文の人々に話しかけ口ずさめる歌があったらいいなと思って始めたことでした。作り始めてもう20年は

過ぎたと思います。そろそろ普及活動の一つとしてカラオケにいられて、誰しもが歌えるようになれば、それはそれで縄文への関心を高め、広がり期待出来ると思うのです。この歌を青森県出身で日本を代表する歌手・吉幾三さんが歌い出したら一気に縄文への関心が深まるはずなのに、とはしがない作詞家の切ない片思いです。仕方がありませんので、私が歌いながらカラオケで縄文ファンを少しずつ増やし続けたいと思っています。

当日のご講演で特に印象に残った菊池先生の言葉に「母なる縄文、父なる弥生」という一節がありました。地球人の母体はまさに縄文にありと推測される納得の一言。大変勉強になりました。世界中のどの母親もわが子を戦場に送りたくはないはず。目を転ずれば、世界の一部では血生臭い紛争の数々、おぞましくも愚かな人間の蛮行、平和を願う人は絶対に多いと思うし、それゆえに縄文から平和への発信が必要かと思われます。私ごとですがとは思いますが「縄文平和主義」を今年のお正月悩み多き庶民の願いを込めて年賀状に書いてみました。今年の夢は縄文歌謡がカラオケに入ったら行きつけの居酒屋で歌いまくりたいものです。(縄文歌謡作詞家)

初めての開催 聞き入る参加者

第2回／おいらせ町会場

カワヨグリーン牧場の協力で、地元の方々を中心に集まった。語り部は菊池正浩さん。「縄文の魅力」をレヴィー・ストロースが示したブリコラージュに重ねて説明。絶妙な思考に会場は沸いた。青森県の永嶋豊主幹が、地元縄文遺跡の話題にふれながら、世界遺産登録



仙台市会場で講演する菊池徹夫さん



菊池正浩さんが語り部をしたおいらせ町会場

のことも含め講演を行った。

【協力】カワヨグリーン牧場

【開催日】2015年12月1日(火)

【会場】カワヨグリーンロッヂ

【語り部】菊池正浩さん(元NHKプロデューサー、三内丸山縄文発信の会理事)

【アドバイザー】永嶋豊さん(青森県文化財保護課文化財保護主幹)

おいらせ町会場・語り部 菊池正浩さん 縄文人を身近に感じる もっとも有効な手がかりは

カワヨグリーン牧場のご尽力で、20人の予定が、当日は倍の40人あまりの参加。青森県文化財保護課の永嶋豊さんが、地元の縄文遺跡や貝塚を紹介した。縄文の五郎丸ならぬ八郎丸ですと、合掌土偶を紹介すると、みんなの表情が、ぱっと明るくなった。やはり、土偶の威力はすごい。縄文人は、なにを考えていたのか？ 縄文人を身近に感じるもっとも有効な手がかりは、やはり土偶が一番ではないかと思う。最近、この土偶をはじめ縄文への思いが、燎原の火のように飛び火して、オレにも、わたしにも、話させてという機運がいつせいに、噴出してきた感がある。

(元NHKプロデューサー、三内丸山縄文発信の会理事)

3時間に渡る濃密な時間

第3回／青森市会場

語り部は、おいらせ町に引き続いて菊池正浩さん。おいらせ町でも好評だったブリコラージュと縄文の話をした。もう一人は三内丸山応援隊の中村文子さん。七戸町で発足した二ツ森貝塚のボランティアとの交流を通して感じたことを発表した。国立民族学博物館の小山修三名誉教授による基調講演、青森商工会議所の若井敬一会頭、菊池正浩さんとの鼎談など、3時間にわたる濃い時間となった。

【開催日】2016年1月14日(木)

【会場】ねぶたの家W・ラッセ

【語り部】菊池正浩さん(元NHKプロデューサー、三内丸山縄文発信の会理事)、中村文子さん(三内丸山応援隊、三内丸山縄文発信の会)

【アドバイザー】小山修三さん(国立民族学博物館名誉教授)、若井敬一郎さん(青森商工会議所会頭)

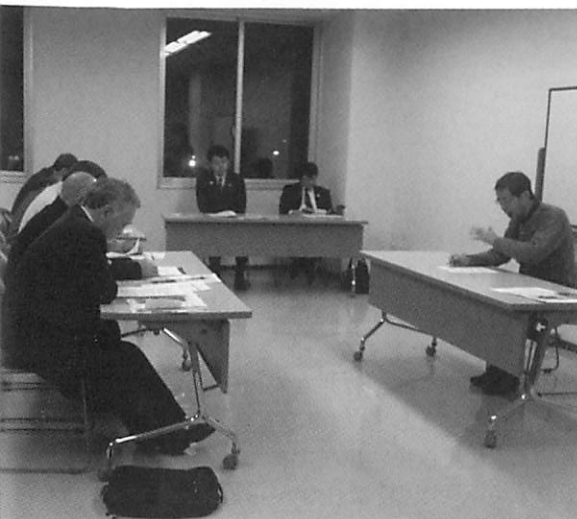
青森市会場・語り部 菊池正浩さん 20年前の初心を確認

青森では、三内丸山応援隊の立ち上げから、かかわってきた若井敬一郎さんが、思いのたけを話してくれた。若井さんは、現在、青森商工会議所会頭として、縄文の運動の先頭に立っている。大変心強い存在である。また、中村文子さんが、貝塚の、素朴ながら心温まるミニガイドぶりを紹介してくれた。そのあと、ひさびさに、小山修三先生とじっくり縄文への思いを語り合うことが出来た。それは、20年前の三内丸山の初心を確認することでもあった。当時、「地下の真実、地上のロマン」ということばがよく語られた。考古学者の「真実」を尊重しながら、一般市民も「縄文のロマン」について、おおいに語り合おうということになった。

(元NHKプロデューサー、三内丸山縄文発信の会理事)



青森市会場は講演、鼎談、語り部2人によるお話、トークセッションなど充実の内容
(写真は鼎談の様子。左から菊池正浩さん、小山修三さん、若井敬一郎さん)



NPO法人つがる縄文の会会員が世界遺産を巡る動きに熱心に聞き入った

地元・つがるの情報を勉強

第4回／つがる市会場

語り部は、つがる縄文の会の愛澤尹昭さんと4年連続の登場となる田中誠さんが行った。愛澤さんは自身の縄文への思いを、田中さんは道具の定義など哲学的視点も含めて発表した。アドバイザーとして青森県の岡田康博参事は青森県の世界遺産の取り組みについて最新の状況を報告、つがる市の佐野忠史学芸員はつがる市の縄文遺跡発掘最新情報を講演した。

【協力】NPO法人つがる縄文の会

【開催日】2016年1月16日(土)

【会場】つがる市生涯学習交流センター・松の館

【語り部】愛澤尹昭さん(NPO法人つがる縄文の会会員)、田中誠さん(NPO法人つがる縄文の会理事)

【アドバイザー】岡田康博さん(青森県企画政策部参事)、佐野忠史さん(つがる市教育委員会学芸員)

つがる市会場・協力 川嶋大史さん
「今年こそ、いよいよ」

1月16日、つがる市・松の館で「縄文語り部・

世界遺産ミーティング」が開催された。会場は50人ほどの聴衆で熱気がムンムンしていた。岡田康博さん(青森県企画政策部参事)から世界遺産登録への最新情報が聞けることが最大の関心事。何度も推薦が見送られて来たが「今年こそ、いよいよ」というムードが会場全体に伝播し、聴衆の眼差しは真剣だった。

そして、正月明けに「県重宝3件指定解除／所有者が県外に売却」と報道された記事の波紋。つがる市の亀ヶ岡石器時代遺跡出土の遺物(土器・土偶)は海外でも人気のブランド品だ。地元の人が所有していた県重宝が、県外のコレクターの手に渡ってしまった。

市民から「市は県外流出を止められなかったのか」という指摘があった。市教育委員会是一年ほど前から「残してほしい」と働きかけたが、個人所有のものを止めることはできなかった。そのリアルな報告に納得したものの、地元で遺物を所有している人は多く、世界遺産登録に向けて地元の遺物管理に水を差す行為だと警笛を鳴らすような場面だった。

(NPO法人つがる縄文の会・理事長)

東京からも縄文の魅力を発信

第5回／東京都会場

語り部は東京でふだんから語り部活動を心がけているという遠藤勝裕さんが、縄文に惹かれるその思いを語った。また、飛び入りで大日向明子さんが自身が関わる縄文WEBを通しての思いと縄文の可能性について語った。また、青森県の岡田康博参事が世界遺産登録に向けた動きについて講演を行った。

【日時】2016年1月23日(土)

【会場】朝日新聞社東京本社「読者ホール」

大日向明子さんは語り部の新たな在り方を語った

【語り部】遠藤勝裕さん(日本学生支援機構理事長、東京都教育委員、三内丸山縄文発信の会会員)、大日向明子さん(三内丸山縄文発信の会会員)

【アドバイザー】岡田康博さん(青森県企画政策部参事)

東京都会場・語り部 大日向明子さん
ブリコラージュだらけの縄文論
「街場の縄文ファンを探せ！」

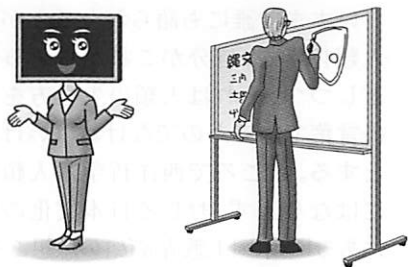
新手の語り部が各地で続々、誕生する中、インターネットを通じ、縄文の話題を提供す



東京都会場では遠藤勝裕さんが縄文に惹かれる心を話した



「WEB語り部」「ホワイトボード語り部」等々、
新手の語り部、各地で続々、誕生！



る「WEB語り部」として、東京縄文塾で登壇させていただいた。タイトルは「街場の縄文ファンを探せ！」。3年前に立ち上げた「みんなの縄文」サイトを運営をしていく中、アクセス数、問い合わせ、キーワードから「一般の人は縄文の何に関心を寄せ、ひきつけられているか」を分析。現代若者の「土偶愛トレンド」、オジサンも盛り上がる「縄文のアースダイバー現象」も資料とともに紹介させていただいた。2月14日のバレンタインデーには、登壇の際、お話したようにありったけの縄文愛をこめ、「縄文リアルタイムニュース」ページを同サイトに新設。「縄文の今」がわかります。ぜひ、ご覧下さい！

みんなの縄文

検索

(WEB語り部)

遺跡への関心高まる七戸町

第6回／七戸町会場

七戸町では昨年度に続いて2回目の開催。中村文子さんが二ツ森貝塚のボランティアの方々との交流から感じた縄文の魅力を話し、続いて二ツ森貝塚保存協会の鎌本義明会長が二ツ森貝塚と地元とのこれまでの経緯

やこれから活動に努めていく決意を語った。アドバイザーは七戸町世界遺産対策室の小山彦逸室長。縄文についての基礎知識を含めながら、縄文遺跡の魅力を紹介した。

【協力】七戸町教育委員会

【日時】2016年2月13日(土)

【会場】二ツ森コミュニティセンター

【語り部】鎌本義明さん(二ツ森貝塚保存協力会会長)、中村文子さん(三内丸山応援隊、三内丸山縄文発信の会)

【アドバイザー】小山彦逸さん(七戸町教育委員会世界遺産対策室長)

地域活動のすばらしさ

中村文子さん

春のような暖かい日、2月13日に七戸町二ツ森コミュニティセンターで開催された。語り部として二ツ森貝塚保存協力会会長鎌本義明氏は遺跡ボランティアを立ち上げ、見学者が増加している事を報告された。世界遺産登録には地域の盛り上がりが必要であり、地域の方に貝塚のすばらしさを知ってもらうためには行政に頼らず、地元で出来る事から始めようと話された。

アドバイザーとして小山彦逸七戸町教育委員会世界遺産対策室長は民間組織の立ち上げ、小学校の縄文出前講座、新幹線駅舎への横断幕、遺跡紹介用のプレハブ設置を報告された。まだ名はついていないがマスコットキャラクターも紹介された。

最後に県世界文化遺産登録推進室一戸佳子主査より登録に向けた様々な取り組みを紹介した。27年12月に16遺跡で作業を進める事も報告された。40名の参加者が熱心に耳をかたむけていた。



七戸町会場は二ツ森貝塚近くのコミュニティセンターが会場。
参加者は中村文子さんの語りに耳を傾けた

〈次号レポート掲載予定〉

第7回弘前市会場

【協力】弘前縄文の会

【日時】2016年2月24日(水)

【会場】弘前文化センター

【語り部】三上隆博さん(弘前縄文の会会員)

【アドバイザー】今井二三夫さん(青森県文化財保護審議会会長、弘前縄文の会会長)、岡田康博さん(青森県企画政策部参事)

第8回むつ市会場

【協力】イカす大畑カダル団・大畑八幡宮

【日時】2016年3月5日(土)午後2時～3時30分

【会場】大畑八幡宮社務所

【語り部】加賀谷昌裕さん(下北を知る会)

【アドバイザー】岡田康博さん(青森県企画政策部参事)、森田賢司さん(むつ市教育委員会学芸員)

このミーティングは参加無料で、縄文に少しでも興味があれば、どなたでも参加可能。詳しくは問い合わせを。

【主催】青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室

【実施・問合せ】三内丸山縄文発信の会

TEL 017(773)3477

加曽利貝塚とかそら一ず

川野真理香

加曽利貝塚は、千葉市若葉区の住宅街の中にあります。駅からも決して近くないので、あえて行こうとしないとたどり着かない場所です。さぞかし過疎っているんだろうと思いきや、案外人がいます。ベンチで談笑している人、木の下でピクニックをしている人、犬の散歩をしている人。あたりには、貝や土器片が散らばっています。

「かそら一ず」は、加曽利貝塚とそのPR大使「かそりーぬ」を勝手にPR



フリース（かそりーぬの帽子は加曽利E式土器！）

する活動をしている集団です。しかし、みな元々縄文時代が好きだったわけではなく、「かそりーぬ」をきっかけに、加曽利貝塚や縄文時代に関心を持ち始めたのです（縄文時代をこよなく愛する方から顔をしかめられそうです……）。

加曽利貝塚が公園として利用されるのも、それはそれでいいものなのですが、せっかく「縄文」の魅力が詰まった場なので、なにかのきっかけで、縄文に関心を持つ人が増えるといいなあ、と考えています。まずは、加曽利貝塚に来てもらおうということで、昨年11月に復原住居前で青空ヨガを開催しました。リラックス効果があるヨガと加曽利貝塚の環境がマッチしたようで、非常に好評でした。第2弾も開催する予定ですので、興味がある方は「かそら一ず」のfacebookページをご覧くださいだと思います。また、千葉市には120か所以上の貝塚があるので、貝塚めぐりツアーなんかもいいなあ……と日々妄想しています。

（千葉県千葉市在勤）

縄文人の暮らしや生き方について、考えをめぐらすとき、ヒントになる本を自薦他薦で挙げていくコーナー。

いままで誰にも語られたことがない人類哲学を、自分がこれから語るのだとしつつ、それは人類の生き方を自分の言葉で語るものでなければいけないとする。ところで西洋哲学は人類哲学にはなりえず、むしろ日本文化の原理にある「草木国土悉皆成仏」の思想こそが、人類哲学たりうるとする。そしてその思想の根底に実は縄文文化というものがあるのだとするのだ。縄文文化は豊かな狩猟採集文化、漁労採集文化であり、縄文土器というすばらしい芸術品を生み出した。そこにはあらゆるものが霊を持ち、神がいたところにいるというアニミズムの思想があった。また死んだ人の魂は再び生き返るとする再生の思想も持っていた。このような縄文文化が日本文化の基層に存在していた。それがあって「草木国土悉皆成仏」という思想を日本人はすんなり受け入れることが出来た。日本文化の根本思想は

今号の本

「人類哲学序説」

著／梅原猛

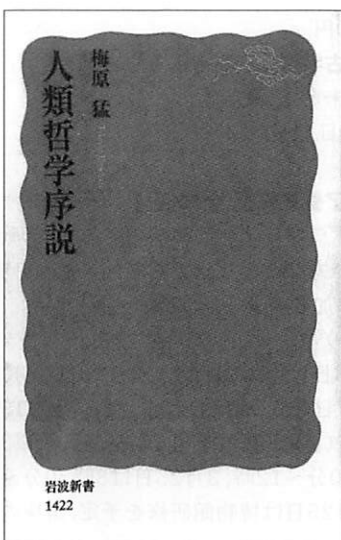
発行／岩波書店

定価／760円＋税

14代目店主
その① 田中 誠

縄文文化というものがあるのはじめて
成り立ちえたのであり、そしてそれは
今や人類の哲学にならなければいけな
いとするのである。この観点から、デカ
ルト、ニーチェ、ハイデッガーを論じ、
ヘブライズム、ヘレニズムを論じてこ
れを批判する。最後に森の思想につい
て触れつつ、日本の思想こそ、人類哲
学たりうるとするのである。このよう
に畑違いの哲学者という立場から梅原は
縄文を日本の基層文化だとし、それが
人類の哲学に通じるものだとするその
考察は実に新鮮で興味深い。

(青森県つがる市在住・つがる縄文の会)



発掘調査の参加・三内丸山編

三井 聖史 ⑤

大学1年生から東京・府中
市で発掘調査のアルバイトを
始めたあと、大学2年生になっ
て三内丸山の岡田康博さん
にお会いする時がありました。
近況報告とともに、思い切っ
て「三内丸山の発掘調査に参
加させていただきたい！」と
お願いしたところ、なんとご
快諾!! 「夢」が実現して、
夏休み中の2ヶ月間、三内丸
山の発掘調査に携われることになりま
した。

最初の年は1999年、折しも環状配石
遺構が複数発見されて注目を集めてい
る時期でした。そんな注目されている
遺構や住居跡、土坑墓跡の発掘に関わ
ることができて、新たな発見の数々に
驚きと感動の毎日でした。ちょうど佐
藤洋一郎先生とその学生さんもいらっ
しゃっていて、考古学なことだけで
ない分野にも触れることができました。
農業や食に関心を持ったのもそれがき
っかけで、現在の食品関係の仕事に繋が
っているのかも知れません。

あっという間に2ヶ月間の三内丸山
での生活が過ぎ、ますます縄文に、考
古学にハマってしまった私は、冬は東
京で、そして夏はまた三内丸山で発掘



筆者が調査に参加した第18次調査区(2000年7月撮影)

調査に参加するようになっていました。

2000年と2002年の夏にも参加して、
弘前大学考古学研究室の皆さんと一緒に
調査する機会もあって、たくさん刺
激を受ける貴重な経験をさせてもらい
ました。

調査が休みの日には、調査員さんや
展示室の解説員さんが県内各地に連れっ
て行ってくださり、ほぼ青森県内全域
を訪れたのではないかと思います。調
査作業員さんやボランティアガイドさ
んの中には、「青森の母」とも言える
くらいお世話になった方もいて、夏に
三内丸山を訪れることは毎年の恒例行事。
ほとんど「帰省」のような感覚になっ
ていったのです。

(神奈川県川崎市・三内丸山縄文発信
の会会員)

縄文情報 2016

三内丸山遺跡情報

●三内丸山遺跡

☎017-781-6078 (三内丸山遺跡縄文時遊館)

4月29日(金)～5月8日(日)の見学時間は、午前9時から午後6時(入場は閉館の30分前まで)。

【縄文ポシェット(重要文化財)展示】

【日時】2015年7月15日(水)～2016年3月31日(木)

【企画展「円筒土器文化を探るデータベースの分析から」】

【日時】2015年9月11日(金)～2016年3月6日(日)

【三内丸山遺跡報告会】

平成27年度の発掘調査や特別研究の成果を報告する。

【日時】3月12日(土)13時～15時15分(開場12時30分)

【内容】13時5分～13時30分「平成27年度三内丸山遺跡発掘調査成果報告」青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室

13時30分～15時「北陸系石材の三内丸山遺跡への波及の研究」中村由克氏(明治大学黒曜石研究センター)、「三内丸山遺跡出土土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位比分析」青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室、「三内丸山遺跡の集落景観の復原と図像化」辻誠一郎氏(東京大学大学院教授)

【定員】150人

【企画展「第39次発掘調査最新情報展—新発見！溝状遺構—」】

平成27年度に行われた発掘調査の成果など、

最新情報を展示する。

【日時】3月12日(土)～9月4日(日)

【縄文春祭り】

【日時】5月3日(火)～5月5日(木)予定

【三内丸山応援隊体験工房】

縄文ポシェット作り、編布(アングン)作り、板状土偶作り、再生琥珀のペンダント作り、まが玉作り、ミニ土偶作り、組みひも作りの体験。料金はそれぞれかかる(220円～1080円)。所要目安時間はそれぞれ30分～2時間。詳細は問合せを。

【受付時間】9時30分～、13時～

【三内丸山応援隊ボランティアガイド】

事前予約不要で、毎日定時にボランティアによる三内丸山遺跡ガイドがある。所要時間は1時間程度。英語のガイドも可能、希望の場合は予約を。

1回目は9時15分スタート、2回目は10時、以降15時まで1時間おき。最終は16時から。

【集合場所】エントランスホールまたは時遊トンネル出口付近

博物館情報

●縄文の学び舎・小牧野館 青森市小牧野遺跡保護センター (青森県青森市)

☎017-757-8665

【小牧野遺跡 ひなまつりスタンプラリー】

縄文の学び舎・小牧野館内に設置されたチェックポイントをすべてめぐるとお菓子がもらえる。

【日時】2月27日(土)～3月6日(日)

【対象】高校生まで

【カラフルオープンねんど体験】

随時受付。制作時間約30分、焼き時間20分。

【料金】350円

●八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 (青森県八戸市)

☎0178-38-9511

【パネル展「伝える～大正・昭和初期の是川遺跡記録写真～」】

【日時】2015年12月19日(土)～2016年3月21日(月・祝)

【企画展「掘りdayはちのへ～平成27年度発掘資料展～」】

【日時】4月29日(金・祝)～6月26日(日)

〈ギャラリートーク〉

発掘調査を担当した職員によるギャラリートーク。

【日時】5月7日(土)、6月4日(土)各日11時、14時の2回

【土曜日体験教室】(要申込み)

〈縄文土偶作り教室〉

【日時】3月12日(土)9時30分～12時

【定員】30人

【材料費】200円

〈縄文の布を編む教室〉

【日時】4月16日(土)9時30分～13時

【定員】20人

【材料費】200円

〈シカの角でペンダント作り教室〉

【日時】5月7日(土)9時30分～13時

【定員】30人

【材料費】200円

【是川縄文考古学講座】(要申込み)

講師・演題未定。聴講無料。

【日時】5月14日(土)14時～16時

【定員】100人

【ボランティア養成講座(全10回)】

縄文是川ボランティアに興味のある方、活動に参加したい方などなたでも参加可能。各回からの途中参加も可能。

〈1月スタート〉

【日時】1月23日(土)、30日(土)、2月13日(土)、20日(土)、27日(土)、3月5日(土)、12日(土)、19日(土)、25日(金)、26日(土)14時～16時 ※3月12日9時30分～12時、3月25日は8時30分～18時 ※3月25日は博物館研修を予定、講座内募集終了

【対象】一般30人 ※筆記用具持参
(5月スタート)

【日時】5月21日(土)、28日(土)、6月4日(土)、11日(土)、24日(金)、25日(土)、7月2日(土)14時～16時 ※5月28日・6月4日・6月11日は午前・午後の開催。詳細は問合せを ※6月24日は博物館研修(講座内で別途参加募集)を予定、別途費用がかかる

【対象】一般30人 ※筆記用具持参

【冬季日曜縄文体験コーナー】

火起こし、縄文土器の文様拓本、縄文の布を編む、琥珀の勾玉作り、滑石の勾玉作り。

粘土を使う体験については要相談。料金がかるものもあり(100円～1000円)。

【期間】2015年11月1日(日)～2016年3月27日(日)の毎週日曜日9時30分～15時

【日曜日縄文体験コーナー】

火起こし、縄文土器の文様拓本、土製耳飾り作り、縄文の布を編む、縄文土偶作り、縄文土器作り、琥珀の勾玉作り、滑石の勾玉作り。料金がかるものもあり(100円～1000円)。

【期間】4月3日(日)～7月17日(日)の毎週日曜日9時30分～16時

●盛岡市遺跡の学び館(岩手県盛岡市)

☎019-635-6600

【第33回埋蔵文化財調査資料展・盛岡を発掘するー平成27年度調査速報ー】

平成27年度の発掘調査の出土品を紹介する。

【日時】2月6日(土)～5月15日(日)

【縄文ふれあいDAY】

土玉彩色(プレスレット)、古代風ストラップ、拓本とりの制作体験ができる。

【日時】毎月第2土曜日

●御所野縄文博物館(岩手県一戸町)

☎0195-32-2652

【春のクリーンデー】

毎年恒例の春の一斉掃除。ゴミ拾いや落ち葉集めなど。飲み物・長靴・軍手を持参。

【日時】4月23日(土)9時～12時

【縄文ゴールデンウィーク】

【日時】5月3日(火・祝)

【バードウォッチング】

午前は野鳥観察会、午後はバードセイバー(野鳥衝突防止ステッカー)を作る。

【日時】5月15日(日)※小雨決行

【限定メニュー「竹でつくる手提げカゴ」3回コース】

【講師】柴田恵氏、柴田トヨ氏

【日時】3月2日(水)、9日(水)、16日(水)10時～15時

【予約開始日】2月3日(水)9時～

【定員】10人(高校生以上)

【費用】2300円(初回のみ)

【限定メニュー「クルミで作るアクセサリ」】

クルミの樹皮を編んで、かわいらしいアクセサリを作る。

三内丸山縄文発信の会の本

世界最古垣ノ島B遺跡 漆糸製品の復元

函館市南茅部・垣ノ島B遺跡出土の、世界最古の漆糸製品。専門家によるその複製事業の記録を収めた1冊。

A4判・48ページ・フルカラー
定価1000円(税込)



【日時】5月22日(日)10時～12時

【定員】15人

【参加費】1000円

●仙台市縄文の森広場(宮城県仙台市)

☎022-307-5665

【縄文のまつり創造プロジェクト「縄文人の記憶の宴」】

縄文あおもりカレンダー 優秀賞作品決定

青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室では、世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」のPRと地域の宝である縄文遺跡への理解を深めるための取組として、平成28年度版「縄文あおもりカレンダー」を作成中だ。

青森県内の児童・生徒を対象に、「伝えた い縄文の魅力、」をテーマに募集した原画223点から、一般投票を踏まえた最終審



「みんなで土器づくり」(4・5月掲載)

査で優秀賞6点と入賞27点が選ばれた。下記の優秀賞6点がカレンダーの原画となる。

カレンダーは新年度に向けて、県内の学校や公共機関に配布される。

【優秀賞】

「うみにさかなつり」小笠原雫さん(外ヶ浜町立蟹田小学校1年)／「ゆめのなかのおおむかし」森一凜さん(外ヶ浜町立蟹田小学校1年)／「みんなで土器づくり」水越智元さん(八戸市立是川小学校3年)／「くふうたくさん縄文時代」金子光さん(七戸町立七戸小学校6年)／「日本最大級のストーンサークル」児玉和奏さん(青森市立新城中学校3年)／「冬の団欒」蒔苗莉乃さん(青森県立木造高等学校3年)

【問合せ】青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室

TEL017-734-9183

さまざまな場面で神に祈りを捧げ、まつりを行った縄文人の記憶を呼び覚ます。参加無料。

【日時】3月19日(日)13時30分～15時、15時30分～19時

【内容】第一部 記念講演会「縄文人のまつり」長田友也氏(中部大学)、第二部「縄文人の記憶の宴」

【週末体験講座「編布(あんぎん)のポケットティッシュカバーづくり」】※申込み終了

【日時】3月12日(土)10時～14時

【定員】小学生以上20人(小学生は保護者も参加)

【参加費】200円～400円程度

●地底の森ミュージアム(宮城県仙台市)

☎022-246-9153

【企画展「地底の森ミュージアム2015」】

【日時】1月19日(火)～3月13日(日)

【たのしい地底の森教室】

〈ギャラリートーク〉

企画展やフォトコンテストにあわせた野外展示の話。

【日時】3月13日(日)

〈富沢発掘写真会〉

実際の遺跡の前で、発掘調査の様子を紹介。

【日時】3月27日(日)

【企画展「仙台の遺跡●5地下鉄沿線の遺跡」】

【日時】4月15日(金)～6月19日(日)

〈ギャラリートーク〉

【日時】5月7日(土)14時～15時

〈講演会〉(要申込み)

【日時】5月21日(土)13時30分～15時

【講師】文化財課職員

【対象】一般60人(定員を超えた場合は抽選)

【申込み締切】5月14日(土)必着

【体験教室「親子でつくろう古代米」全5回】(要申込み)

【日時】5月14日(土)10時～12時「オリエンテーション・田植え」、6月11日(土)10時～15時「除草・土器づくり」、7月30日(土)10時～15時「除草・石彫丁・かかしづくり」、9月17日(土)10時

～12時「稲刈り」、11月3日(木・祝)10時～13時「収穫祭」

【対象】近隣の小学校に通う3年以上とその保護者20組 ※5回のイベントに参加できること

【費用】1人200円

【申込み期間】4月1日(金)～4月30日(土)必着

【GW手づくり工房★地底の森】

人気の体験コーナーが日替わりで楽しめる。内容は調整中。参加無料。開催日は毎週日曜・祝日開催の体験コーナー「石器をつかってみよう」は休み。

【日時】4月29日(金・祝)～5月1日(日)、5月3日(火・祝)～5日(木・祝)10時30分～12時、13時～15時

【体験コーナー「石器を使ってみよう」】

スタッフが作った石器を使って紙を切って切れ味を体験する。

【日時】日曜日・祝日の13時～15時

【費用】無料

【申込み方法】往復はがき(〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南4丁目3-1)・FAX(022-

246-9158)・E-mail(t-forest@coral.ocn.ne.jp)に、住所・氏名・電話番号・学習したいテーマを記入して、申込み期間内必着で地底の森ミュージアムまで。

●奥松島縄文村歴史資料館 (宮城県東松島市)

☎0225-88-3927

【縄文村講演会「縄文から続く里山・里海の暮らし」】

【日時】3月12日(土)14時～16時

【講師】鈴木三男氏(東北大学名誉教授)・岡村道雄氏(奥松島縄文村歴史資料館名誉館長)

【ヤマザクラ2011本プロジェクト～第3回植樹祭～】(要予約)

縄文以来、宮戸島に生きてきたヤマザクラを復興のシンボルとし、地域の人々と育てていくプロジェクト。参加無料。

【日時】3月13日(日)9時30分～15時

【企画展「古代の塩」】

昨年発掘を行った江の浜貝塚から出土した

縄文遺跡群のオリジナルブックカバーを配布

世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」をPRするオリジナルブックカバーができた。北海道・北東北の縄文遺跡の文化や遺跡の特徴がイラストで描かれている。北海道・東北の紀伊國屋書店、首都圏のブックファーストの各店舗で文庫本を購入するとついてくる。期間限定・数量限定。1回目の配布期間はすでに終了。2回目は2月20日から始まっている。



「北海道・北東北の縄文遺跡群」のウェブサイト(<http://jomon-japan.jp/archives/4446/>)からダウンロードも可能。

【配布期間】2月20日(日)～3月19日(土) ※なくなり次第終了

【実施店舗】紀伊國屋書店/札幌本店、オーロラタウン店、厚別店、小樽店、千歳店、弘前店、仙台店 ブックファースト/新宿店、ルミネ新宿店、銀座コア店、自由が丘店、二子玉川店、アトレ大森店、渋谷文化村通り店、レミィ五反田店、ルミネ北千住店、アトレ吉祥寺店、アトレ吉祥寺東館店、練馬店、ルミネ大宮店、ルミネ川越店、モザイクモール港北店、青葉台店、ポーノ相模大野店

製塩炉の剥ぎ取りを展示。宮戸島で行われた塩作りの歴史について紹介する。また、塩作りの遺物を紹介し、古代の松島湾沿岸の製塩に迫る。
【日時】3月19日(土)～6月19日(日)9時～16時30分

【カキ養殖体験】(全2回コース)

ひと縄オーナーとなり、奥松島の豊かな海でカキの養殖に挑戦。秋の収穫では、縄文土器で作ったカキ鍋や焼きガキを味わう。

【日時】4月9日(土)10時～12時「種付け」、11月27日(日)「収穫」

【参加費】一組5000円

【GW企画「縄文体験・体感WEEK!」

GWならではの日替わり体験や貝塚巡りツアーなどさまざまな縄文体験のほか、企画展「古代の塩」に合わせ、学芸員によるギャラリートークも開催。

【日時】4月29日(金・祝)～5月8日(日)10時～15時

【縄文・宮戸まつり】

宮戸市民センターと縄文村を舞台に、宮戸島の春のおまつりを開催。宮戸島と縄文の魅力を満喫できる。

【日時】5月22日(日)10時～15時

●吉野ヶ里歴史公園 (佐賀県神埼市、吉野ヶ里町)

☎0952-55-9333

【熱気球から遺跡展望】

公園の熱気球「ひみか号」に乗って、吉野ヶ里遺跡を上空から見学できる。

【日時】3月12日(土)～21日(月・祝)の土・日・祝日9時～ ※雨天荒天時中止

【定員】各日先着200人

各地の情報

●青森県おいらせ町

【あおりJOMONフェスタ～体感! JOMONの魅力発見!～】

世界文化遺産登録をめざす青森県の縄文遺跡群の価値や魅力を見て・触れて・楽しく学ぶイベント。世界遺産をめざす構成資産のパネル紹介、出土品(実物)のショーケース展示、縄文時遊館所蔵の「出土品」に手で触れる体験コーナー、「縄文の語り部 ～あおりの縄文遺跡群～」の放映、地元遺跡活用団体の紹介コーナー、縄文フィギュア争奪!クイズラリー、縄文ワークショップ「土器を食べちゃえ!」縄文土器クッキーづくり※株式会社サンブラッソatv(TEL017-762-7010)に要予約、ミニ土偶づくり体験、勾玉ペンダントづくり体験、縄文ファッション写真撮影、ゆるキャラ大集合とイベントもりだくさん。

【日時】3月13日(日)9時～17時

【場所】イオンモール下田2階イオンホール

【問合せ】青森県世界文化遺産登録推進室

☎017-734-9183

●東京都千代田区

【明治大学博物館友の会 第6回古代史講演会「旧石器人と縄文人の環境適応～環境変動とはどのようなものか、どのように適応したのか～」】

気候変動など環境が激変した時代を、人類はどう生き抜いたのか。

【日時】3月28日(月)14時～16時

【講師】辻誠一郎氏(東京大学・新領域創成科学研究科)

【会場】明治大学駿河台校舎 グローバルフロント1階 グローバルホール

【参加費】会員・学生無料、一般1000円

【申込み】普通はがき(〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学博物館友の会「古代史講演会」係)、FAX03-3296-4365(博物館気付)、E-mail(meihakutomonokai@yahoo.co.jp)宛に、「古代史講演会」係と明記の上、申込みを。

【申込み締切】3月21日(月)

●新潟県上越市

【春の公開講座】

JCV上越ケーブルテレビによる公開講座。「い

にしえの文化を辿る」をテーマにし、岡村道雄氏(奥松島縄文村歴史資料館名誉館長)が講師を務める。秋に上越ケーブルテレビで放映予定。

〈日本のルーツ・縄文文化～三内丸山遺跡など、北東北の縄文文化と上越地域とのつながり～〉

【日時】5月31日(火)18時45分～

〈縄文から弥生文化への大変革～奴奈川姫のクニの成立～〉

【日時】5月31日(火)20時～

【講師】岡村道雄氏(奥松島縄文村歴史資料館名誉館長)

【問合せ】上越ケーブルテレビ株式会社

☎025-526-3474

新刊紹介

●福島市宮畑ミステリー大賞作品集「縄文4000年の謎に挑む」

福島県福島市の「じょーもびあ活用推進協議会」が、2014年4月25日から2015年3月31日まで、宮畑遺跡の2つの大きな謎(謎その1「直径90センチメートルの柱」、謎その2「47.82パーセントの焼かれた家」)を作品テーマにした、小説・漫画の募集を行った。2015年6月27日(土)に福島テルサで行われた審査会で、応募総数149作品(小説138作品、漫画11作品)から、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞4点の受賞作が選ばれた。審査員は佐藤B作氏(俳優・福島市出身)、佐藤秀峰氏(漫画家)、清水克衛氏(書店「読書のすすめ」代表・本のソムリエ)が務めた。

最優秀賞の寺島明美作「ミヤハタ!タイムスリップ」はじめ、受賞作7作品を収録した「福島市宮畑ミステリー大賞作品集『縄文4000年の謎に挑む』」が、このほど出版された。全国の書店、ネット書店で好評発売中。

【定価】980円+税





縄文 フォトファイル

大人も子どもも楽しんだ 三内丸山遺跡の「縄文冬祭り」

2月13日・14日の2日間に渡って、三内丸山遺跡・縄文時遊館で「縄文冬祭り」が開かれた。

クイズラリー、雪中宝さがし、大型すべり台、雪だるま広場、冬の遺跡のフォトギャラリー、縄文もの作り体験コーナー、火おこしやクルミ割り、縄文編み物を体験する縄文生活体験コーナーなど、各コーナーには親子連れや子どもたちが参加し、冬ならではのイベントを楽しんだ。

(写真上／火おこし体験、右／雪中宝さがし)



NPO法人

三内丸山縄文発信の会

事務局／〒030-0861 青森市長島 4-11-8
TEL 017 (773) 3477
FAX 017 (732) 3545
MAIL jomon@jomon-net.xsrv.jp
HP <http://jomon-net.xsrv.jp/>
縄文ファイル
平成28年3月1日発行

HP「みんなの縄文」
<http://www.jomonjin.net>

Facebook「NPO法人三内丸山縄文発信の会」
<http://www.facebook.com/npojomon>

twitter「三内丸山縄文発信の会」
https://twitter.com/Jomon_Hassin

会員募集

わたしたちは、未来の三内丸山市民です。

五千年前の三内丸山遺跡は、自然と共に生きる知恵と、幅広い交流の心と、祈りにつまれた美しい世界を教えてくださいました。

いま、わたしたちは、森への想像力と海への想像力を奮い立たせて、21世紀の三内丸山の実現をめざします。

このわたしたちの三内丸山憲章に賛同くださる、三内丸山縄文発信の会の会員を募集しております。

〈三内丸山縄文発信の会〉

1995年8月発足、2003年8月NPO法人化「三内丸山縄文発信の会」
会員は

●年会費 10,000円(個人) 50,000円(法人1口)(含縄文ファイル代)※夫婦で1口の申し込み可。※25歳までの申し込みの方は年会費3000円。

●会員は、それぞれ三内丸山縄文遺跡を広く世界にアピールします。

●会員には、会発行の隔月刊情報誌「縄文ファイル」を、会のアピールおよび会員拡大のためにも使用できるよう送付いたします。

●会員には、会が関係するシンポジウムの整理券を優先的に差し上げます。

「NPO法人 三内丸山縄文発信の会」理事長 藤川直迪

Please Support our Activities

The Sannai-Maruyama site from five thousand years ago shows us people with the wisdom to live in harmony with nature, curiosity about the wider world around them, and a strong spiritual orientation.

They stimulate our imaginations and help open our minds to the forests and seas.

Believing that their lessons can better our lives in the 21st century, we, the members of the Sannai-Maruyama Jomon Era Information Transmission Association, strive to disseminate the knowledge we obtain.

If you are interested in our activities and would like to help, you are cordially invited to join the Association.

Supporting Members

●Make an annual contribution of ¥10,000 for individuals or ¥50,000 for organizations.

●Help to publicize the Sannai Maruyama site and disseminate collected information.

●Receive three copies of each monthly issue of the "Sannai-Maruyama Jomon Era File."

●Receive free tickets to symposiums organized by the Association.

Naomichi Fujikawa

President Sannai-Maruyama Jomon Information Association